



「梅一輪。一輪ほどの暖かさ」(服部嵐雪)

どこからともなく薫ってくる梅花の香りに、春の気配を感じる候となりました。「梅」には春告鳥の「ウグイス」がよく一緒に描かれています。実は梅の木に来る鳥はメジロが多いそうです。かつて白山などに沢山生息していたようで、宇土の市鳥になっていますが、近年はすっかり少なくなりました。啼き声がとても美しく、満開の梅の花と遊ぶように見える仕草も愛らしいメジロ、”目白押し”にやってきてほしいものです。

3月開催の公演情報

当日精算券を同封しています。当日でも前売り料金で入場できます。

春の音楽の祭典 ~宇土の宝もの~

宇土市市制施行60周年を記念して、今回のテーマは『宇土の宝もの』・・・オープニングは、約40年前に作られた岩代浩一作曲「宇土市民の歌」を作曲家の兄弟の岩代和武氏による編曲・指揮のもと約100人で合唱します。第1部は宇土・宇城の合唱団・吹奏楽団がこの60年間のヒット曲などを演奏、どんな曲が出てくるかお楽しみに！第2部はイタリアやウィーンで活躍中の小山道子さん(ソプラノ)・森尚子さん(ピアノ)をゲストに迎え、幽玄な世界を歌とピアノで表現します。フィナーレは合唱有志とゲストによる「乾杯の歌」で宇土のこれからを祝します。

内容：特別合唱「宇土市民の歌」 編曲/指揮：岩代和武
第1部 60年記念選曲集 (各団体) 第2部 ゲストタイム
小山道子(ソプラノ) & 森尚子(ピアノ) ~「夕鶴」そしてイタリア & ウィーン~
有志合唱「乾杯の歌」



3月10日(日)
13:30 開演

思い出は音楽とともに 岩代 和武(合唱指導・元高校音楽教師)



私は松橋高校の9年間の勤務中、当初約2年間は宇土市民でした。宇土市民合唱団(後に宇土混声合唱団に改名)の指揮者に招かれ、宇土市民会館での演奏やテレビに出演したり楽しく活動しました。やがて宇土市市制20周年記念式典があり、その晴れがましい場で「宇土市民の歌」を披露せよとの大役を仰せ付かります。メロディと混声4部の譜面はありましたが、私の一存で編曲しました。1番はハミングで朝の雰囲気を、2番は雁回山などの生き生きとした自然と生命力を、3番は四重唱で霧の水と立岡の桜の身近な幸福感を、そして4番は行進曲風にして前進発展する連帯感を表してみました。本番で真っ先に拍手されたのは大和忠三市長さんでした。エンディングにかぶせての拍手でしたが、苦笑しながら笑顔での盛大な拍手に感激したことでした。宇土混声合唱団での活動の約10年間は思い出深いものが多々あります。なかでも団員さんの結婚に際してお祝いの合唱曲を作ったのは嬉しいことでした。作詞の得意な団員さんがいたからこそ出来た。名曲です。「花嫁玲子さんを讃える祝歌」「スニーカー娘はヤマトナデシコ花嫁になった」は特に自画自費の作品です。

こどものための合唱組曲「チコタン」を演奏会で取り上げたときは、子ども向けの作品を大人が演奏するのは難しいのですが、原作にはない魚屋の子どもの台詞を新たに作り、男の子に舞台上で演じてもらうことで、お客さんにとっても喜んでもらいました。実際にその少年は魚屋の団員さんのご長男でした。見事な演技でした。宇土市民会館前館長の三浦さんが辞められると聞き、感謝の気持ちで独唱とピアノと朗読による作品を自作自演したのは5年前のことです。「ラジオを愛した男」「凄惨な男の恋」「宇土を愛した文化を愛し」等による組曲「凄惨な男の恋(うた)」は、仕事に生き、宇土を愛した魅力的な人柄を表現できたかと思っています。

「春の音楽の祭典」オープニング合唱「宇土市民の歌」の編曲・指揮をして頂く岩代先生に宇土にまつわる思い出を寄稿していただきました。

「フロントスタッフ講座」を受講して サポーター会代表 田上 千景

2月4日に立春を迎え、寒の戻りを少し期待しつつ、春を待つ今日この頃です。先日2月5日に、宇土の文化を考える市民の会サポーターとして「フロントスタッフ講座」研修(県劇ゼミ)に参加させて頂きました。講師の星乃先生のパワーに終日圧倒されながらも、ワクワク、アツと言う間の研修でした。お客様をお迎えする細やかな基本から応用までを教えていただきました。チケットのもぎり、扉の開け閉め等、なぜそうしないといけないのかという意味や、実技を教えていただきました。一つ一つの動作にも、瞬時に判断する力が必要だと言う事でした。この研修で一番感じたことは「その日の公演は何もなくて当たり前」その為には、常に周りに目を配り、不具合なことが出そうであれば、事前に対策を取っておく、という事でした。これは仕事においても、人生においても、相通するものがあると思います。とても有意義な研修でした。



これからサポーターとしての役割として少しでも多くの方々に宇土市民会館へ足を運んでいただき、そのひと時を感動と、明日からのエネルギーとなる様に、お手伝いをしていけたらと思っています。サポーターは随時募集中です。



宇土太鼓祭 -MAJIWARI-



平成29年に和太鼓として日本で初めて国指定有形民俗文化財に指定された「宇土の雨乞い大太鼓」を用い、担い手である宇土の若手太鼓奏者たちが、JAZZピアニスト、ヴァイオリニスト、バレエ、箏、三線とコラボし、伝統の雨乞い大太鼓の新たな表現に挑みます。伝統とは、いまを生きる担い手たちの感性で時代ごとの要素を取り入れ、常に革新する中で、その芸能の芯となる在り方を再確認していくことで形作られるものです。太鼓の持つ表現の幅や、親和性をぜひ感じていただきたいと思ひます。

- ◆第1部 「復興」宇土天響太鼓+眞志喜 朝太[三線]、宇土高校和太鼓部「鼓」
- ◇第2部 「かぐやひめ」〔初演〕
太鼓芸能集団「袖衣」+バレエスタジオ ラ・フルール+小路永 和奈[箏]
- ◆第3部 「祝祭」
UTO15+古瀬里恵[ピアノ&ヴォーカル]+市瀬詩子[ヴァイオリン]

3月17日(日)
13:30 開演

NPO法人 宇土の文化を考える市民の会 宇土市民会館ホームページ <http://www.utobunka.jp>
事務局 〒869-0433 宇土市新小路町123 宇土市民会館内 TEL 0964-22-0188 FAX 0964-22-0189

■年会費納入のお願い 平成30年度の年会費納入ありがとうございます。未納の方は、郵便局で振込まれるか、市民会館窓口でお支払い下さい。よろしくお願ひいたします。*火曜日休館

事業報告

アンケートでいただいた感想をご紹介します。

1月13日

桂伸三 初笑い落語会

とても楽しめました。語り口がはっきりしていて顔の表情もとても良く、引かれていきました。いつか笑点にも出て欲しいと思いました。久しぶりに声を出して思いっきり笑えました。ありがとうございました。

(女性・60代・宇土市内)



一つ目のネタのそば屋での話は私が大阪の「花月」という寄席に父に連れられて行った時に初めて聞いた話です。それから70～80年経ちこの話が超古典である事がよくわかります。古典落語を上手に演じて下さり感激しました。(男性・70歳以上・宇土市内)

落語は2回目ですがこの様な小ホールで聞くのは初めてですが、伸三さんのおもしろい話し方で笑ってわたしも元気がでた。こういうことは初めてです。なかなかのものです。NPO法人ずっと応援しています。これからも。



狂言鑑賞会 11月22日



中学生向けに狂言のお話やワークショップがありましたので一般の大人たちにもわかりやすく楽しめました。(60代・宇土市)

狂言という言葉は知っていても、何も知らなかったと思う。解説が大変わかりやすく、中学生が興味を持って聞く内容で感心して聞いていた。(女性・70歳以上・宇土市)

最初で最後の狂言鑑賞になると思い来たのですがとっても楽しい〜一時でした。なかなか日常では大声を出す事ありませんのでとってもおもしろかったです。笑い、泣き早速孫にしてみせます。

(女性・70歳以上・宇土市)



2月3日 地域伝統芸能祭



野原八幡宮風流、稚児さんの笠のこまやかで美しいこと。子供を大人が大事に育てている姿が嬉しくなりました。宇土御獅子舞、小さな方もしっかり役目を果たすことができるんですね。

朗読と雨乞い大太鼓、すばらしい声と干潟の砂紋、すっかり明治の1日を体験できたような気がしました。(宇土市・70歳以上・女性)



心の栄養になるお祭りでした。特に網田地区の太鼓は、語りと合わせ音・絵がストーリーともものすごくマッチしていて、感動した。語りの方もすばらしかった。(宇城市・70歳以上)

伝統芸能は、その土地に向いてみるのが一番だと思うが、交通の便やらを考えるとなかなか難しい。今回のように便利な場所で見せていただくと、とても嬉しい。伝統芸能の中に子どもの役割があり、小さなころから村の一員として、子どもを育てていく力が村全体にあったのだなあと思えた。今の時代に大切な力だと思う。

(熊本市・60代・女性)

UTO JAZZ MEET 9th 11月24・25日



佐藤さんとボーカルの方々のお話が楽しく、ジャズを身近に感じられました。それぞれの活動状況も分かり、興味がわきました。白鳥の湖は秀逸でした!!トルコ7拍子もおもしろかった。

(女性・60代・宇土市)

落ち着いた雰囲気心地よい。大人の為のコンサートって感じです!(男性・50代・宇土市)

初めて来ました。今までクラシック派でしたがとても素敵でした。佐藤トリオ、色気がすごい。カッコ良かったです。(女性・40代・宇土市)



復活する伝統芸能 宇土市民会館長 高木恭二

50年ほど前の宇土市にはいくつかの神楽や踊りなどが各地に残っていました。伝統芸能が継承されなくなってしまった背景には、高度経済成長や核家族化、価値観の変化等々もありますし、高齢化や後継者不足に加え、支援体制や地域コミュニティの変化も大きいでしょう。

そのような中で復活した稀有な例として、雨乞い大太鼓があります。昭和48(1973)年に榎原大太鼓の皮の張替えが行われ、その後、城塚、上古閑、堂園、馬門、中登においても張替えができ、昭和61(1986)年に大太鼓フェスティバルが行われています。

何とんでも大太鼓復活の弾みとなったのは、ふるさと創生事業ですが、(社)宇城青年会議所による雨乞い大太鼓調査が大きな役割を果たしています。この時のデータをもとに、他の20基の大太鼓の張替えと大太鼓収蔵館の建設がなされました。

また、一度無くなりかけた伝統芸能が復興できた要因として、地域住民の中に戦前行われていた雨乞い大太鼓や踊りの動き、メロディなどを覚えておられた方が何人かおられたことです。

無くなってしまったと思っている伝統芸能でも、復活はできる可能性はあり、条件が整えられれば、再生は可能だと思います。そして、太鼓フェスティバルのような大きな舞台ではなくとも、発表の場があるというのも大事な要素かもしれないと思っています。

市民会館が伝統芸能復活の一翼を担うことにつながればすばらしいことだと考えております。



宇土映画祭 1月27日

「人生フルーツ」だけを見ましたが、高齢者にとって非常に共感をおぼえる内容でした。昨年東海地方に住む人より、是非機会があったらおすすめですよと言われてたので、今回は試せる機会を持って感謝しています。(70歳以上・宇土市)



風が吹けば葉が落ちる、葉が落ちれば土が良くなる。土が良くなれば実が実る。コツコツゆっくり・・・よかったです。

(女性・50代・宇土市)

子供と映画を楽しめる機会及び、公共施設の利用方法を学ぶ機会となりました。

(女性・40代・宇土市)